

2022 年 2 月 25 日監督・コーチ・代表者会議議事録

参加者

池田晴彦、和智主馬、矢崎素暖、矢野正人、谷口貴信（学連）

藤川毅(全ア連)、各校監督

関西学連としてはリーグ戦の対面実施を行う立場

定時総会に向けた意見

配布資料

監督コーチ会議議題書

リーグ戦について（パワーポイント）

議題①指導者講習会について

全日本アーチェリー連盟 普及部 藤川毅

公認スポーツ指導者育成について

2023 年度に改定

指導者資格の保有者が指導を行うという規定

他のスポーツに比べてアーチェリーは未整備

競技別指導者資格の名称変更

国体の指導は公認コーチ 1 以上の保有が必要

JSPO は公認スポーツ指導資格保有の促進・義務付けを進める

全日本アーチェリー連盟

指導者資格の制度：地区アーチェリー協会、学校部活動（全日学連を含む）などにおいての
コーチ活動を公認コーチが必ず行う形式に

目的：普及・強化、コーチの資質の向上、審判者資格の養成、リスクマネジメント意識の向
上、ナショナルコーチの組織・計画的な育成等々

5 種の資格スタートコーチ（新設）…必要最低限の知識、上級コーチと協力、18 歳以上で取
得できる

→コーチ 1：725 人…20 歳以上・アーチェリー経験 5 年以上、国体の指導の最低条件

→コーチ 2：13 人…22 歳以上

→コーチ 3：38 人

→コーチ 4 ナショナルコーチの養成対象

JOC「ナショナルコーチはアカデミーを受ける必要」

日本スポーツ協会「コーチ 4 がいないとアカデミー受けられない」

資格更新…更新研修とリフレッシュ研修

講習時間・料金：資料参考

資格登録者配置の義務（2030 年実施予定）

都道府県ア協・連、部活動、スポーツクラブなどにおいて公認コーチを配置しなければならない形になる

大会出場時の監督・コーチは公認指導者資格が必要に

全日本学生連盟の主催大会：コーチ 1 以上の指導者を帯同させることを原則とする予定

日本代表チーム：コーチ 3or コーチ 4

指導者育成委員会の組織

指導者資格の義務付けに関する対応：別紙対応

質疑応答

・公認資格に試験はないのか

→一応最後に試験はあるが落とすような試験ではない

・公認資格者がいなければ大学の部活動などはできないのか

→今は決定していないが、他のスポーツと比べた場合検討する必要がある。高校はその方針

・関西学連内部にもコーチを雇っていない大学が多いが大変ではないか

→（学生でも）スタートコーチは取りやすいので取ってもらう

・制度が整備されるまでの二年でコーチ資格を取得するのは難しいのではないか

→コーチ資格は段階的に取得していく必要はない、コーチ 3 を直接取得することができる

・資格取得における費用の負担は？

→大学に申請するための文書がまた公開される予定、国体コーチ育成の観点から各都道府県ア協連が支援してくれる？

議題②2023 年度リーグ戦について

関西学連としてはリーグ戦の対面実施を行う立場

定時総会に向けた意見

今年のリーグ戦の実施方法と変更点について

日程：資料参考

会場：各校レンジ指定校

時間：開始時間の変更（昨年より 30 分遅らせる）

内規改正案

・Extra Match の勝敗決定の変更の可能性あり

・不戦敗による記録会は平均点に含まれないようになる可能性

行射時間の変更：1 射 40 秒→1 射 30 秒

全日ア連主催の競技会関連での配慮を追加

リーグ戦の参加校と組み分けについて
昨年度の順位を考慮

会場校の決め方について

学連ホームページ記載の資料参考

学連 HP にアップされている対戦組み合わせの枠組みを提示

試合をする大学同士でその会場校で試合ができるかを話し合ってもらう。

各校合わせて DOS 審判員記録を派遣できるかどうかを確認する。

両校が会場校として使えない、審判員等を出せないような不都合が発生する場合、学連側で調整。

質疑応答

・2 部における記録会での不戦敗・不戦勝の意味は

→記録会における不戦敗・不戦勝はない（例年通り）、スライドにおける意味の混同

・リーグ戦での応援にエールを行うか

→元に戻す方針？定時総会で周知、各大学の厚生課との擦り合わせが必要（レンジ使用大学に依じる）

・両校の合意があってもオンラインでの試合は不可能なのか

→原則対面の予定（学連内部では決定済み）、例外は認めない

議題③その他

・龍谷大学の監督：レンジが移転（深草→山科）したためリーグ戦時注意

・学連のホームページに各校レンジの場所とバスの時刻表など、コロナの影響で大学間の練習試合が組みにくい→関西学連から連絡先を共有

質疑応答